

ハーネスベルトが膝からはずれました。

立山コース	状況	ZANから質問形式にて
年月日 9月22日	Q1	ベルトは折り返して縫ってあるので金具から”抜けない”はずですがそれでも抜けたのですか？
発生時間 昼頃	A	完全にはずれました。解放状態です。
発生場所 5番	Q2	外れた後は、どうなりましたか？そのまま着地？
背中吊りを行うコース	A	スタート直後にはずれ、そのまま着地しました。 このグループは女性ばかりということで着地地点にサポート1名配置していました。 着地後、確認したところ解放状態だったということです。装備を確認し再装着しました。
報告者 赤川	Q3	当該女性の様子は？
	A	びっくりした様子だったそうです。
	Q:	ガイドはどう対処しましたか？
	A	最後に着地地点で全員の装備を再点検しツアー続行

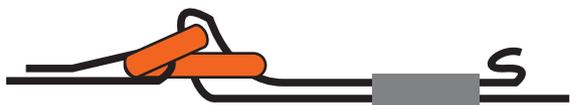
内容



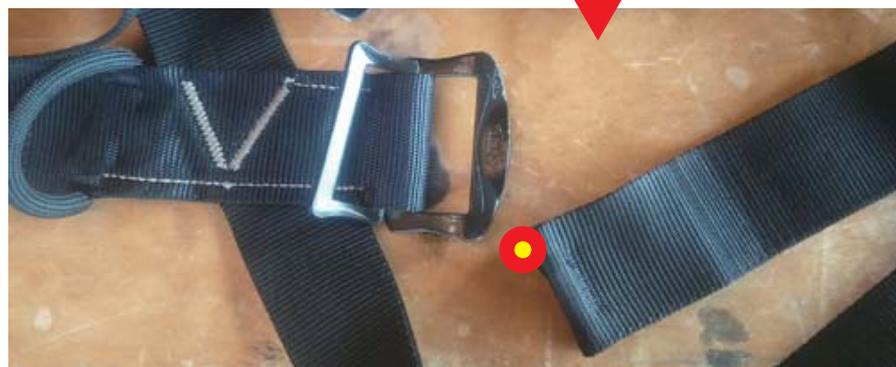
ベルトの先端

●マークの移動に注目

正常



今回



立山コースの対策

※スタッフで原因を検討しました。

ゴムのベルトを通していれば、緩んでも完全に抜けることはない。

今回はゴムのベルトに通っていなかったため緩みやすくなった。

緩んだ状態のまま、テンションをかけず飛び出した瞬間に完全に外れた。

対処方法として

装備装着前の点検

装着後の点検(装着時にゲストによってゴムベルトが抜けた状態になる場合もある)

ショルダーベルトも同様だが、目視しやすいことから未然に防ぐことができる。

しかし、腿ベルトの場合は見逃しやすく、分かりにくい。

異常に緩んでいる場合は、要注意です。ハーネスの点検を！

ZIPLINE ADVENTURE NETWORK としての 方針

- ・はずれるメカニズムを検証しました、次ページの絵を見てください。  
検証すると**ゴムベルトが重要な役割**を果たしています。
- ・これに加えて「テンションをかけずに飛び出した」が次の原因でもあります。  
飛び込むスタート厳禁は常々お願いしています。  
★**飛び込みスタートが事故を誘発します。**

①装備の点検

②飛び込みスタート禁止

両膝がはずれていたらベースフォールという重大な事になりました、ガイドが気を配ることしか防止の方法はありません。

ガイドの資質向上をよろしく願います。

# 写真集

背中吊り

実験台ゆきちゃん談： 痛てえ・・・ 早くおろして・・・



フロント

前はホールド感大丈夫だけど・・・やっぱり怖い

